

厚田区地域協議会 第6期総括並びに引継ぎ事項

第6期地域協議会では「近説遠来」の実現に向け、より具体的な議論が進められ、それをもとに地域では様々な取り組みが行われてきました。

その一つとして、平成30年春オープンを迎える「道の駅」では、地域の人に係り・携わり、この施設が地域振興の核となり、住んでいる人に喜んでもらえる施設となるよう、建設の具体的な提案を行いました。

また、区外からの「誘客」に対しては、訪れた人がゆっくり・ゆったり厚田を楽しむ「滞在」「周遊」を導き出すための具体的な取り組みの必要性が確認され、その具現化に向け「厚田地域着地型観光町づくり協議会」を通して、地域資源を活用した『観光商品の開発』『おもてなし講座』の開催など取り組みを展開してきました。

今後は、道の駅を核として朝市や市街地、キャンプ場、さらには市内全体へと人が行き交う流れを生む施設となるよう、地域協議会として提言して行くことが必要です。

次に、地域おこし協力隊は、第1期導入の効果を検証し、新たな“視点・感性”は地域活性化に引き続き必要と判断、本年5月第2期協力隊の導入となりました。

今後も引き続き導入の効果を検証し、地域おこし協力隊の必要性について地域と共に検証を重ね、将来のあり方も含め協力隊に求める地域の声を導き出すことが必要です。

一方、地域協議会のあり方や多くの住民が地域振興に係るための様々な取り組みについて座談会方式で議論が交わされ、より一層自治会との連携・協力が重要であることが確認されました。

今後においては、住民一人ひとりの想いや意見、また、地域協議会における情報を地域全体に伝える仕組みづくりに向け、様々な取り組みを期待します。

また、平成33年3月には地域自治区設置期限が満了となり、将来の厚田区のあり方、方向性についてあらためて地域の声を集約し、その方向性を導き出すことが、第7期協議会における重要な役割となります。

高齢化と人口減少の波は、厚田のみならず、日本全国いたるところで直面している課題です。いつまでも、いくつになっても住みなれた地域に住み続けたい、その想いを叶えるためには、地域が互いに支え合う「共助」の街・仕組みが不可欠です。

「厚田カンパニー構想」は、身近な困りごとの解決に向け、人と人を繋ぐコーディネート役を担います。「できることを」「できる人が」「できるときに」地域住民が主体となって創りあげる「厚田カンパニー」は「近説遠来」における「近説」であり、「遠来」の「道の駅」と合わせて地域自治区振興の両輪となります。

また、この「厚田カンパニー」構想は、地域協議会の今後のあり方とも大きく関係し、厚田区の将来を左右する重要な課題であり、第7期最大のテーマとなります。

以上これらのことを念頭に置き、引き続き「住民自治の推進」「協働のまちづくり」を基本として、より一層「近説遠来」が実感できる取り組みを第7期において推し進めていただきたいと思います。